

イヌワシ

Aquila chrysaetos (Linnaeus)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県の森林生態系ピラミッドの頂点に位置する山岳大形猛禽類で、奥山の限られた地域に生息し、現在数ペアしか確認されていない。本種は、1990年代以降、繁殖成功率の低下と生息ペア数の減少が確認されており、最近はさらに繁殖成功率が低下している傾向にある。

種の特徴

全長81～89cm、翼開長170～213cm、雌の方が雄より大きい。奥山の急峻な断崖のある山地に周年生息し、岩棚や針葉樹の大木で営巣する。主にノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類を捕食するが、カモシカの幼獣やテン等の中形哺乳類、トビやサギ類等の大形鳥類も食べる。

分布

九州以北の山地帯に留鳥として生息しているが、連続分布は本州中部～東北地方に限られる。本県では奥山の一部にしか生息していない。

生息を脅かす要因

繁殖成功率の急激な低下の要因は、餌条件の悪化による繁殖活動の中止や、人間活動による繁殖行動の阻害等である。行動圏内には、成熟した落葉広葉樹林、草地、伐採地等の多様な環境が適度に混在していることが必要で、バランスの取れた森林生態系の管理が必要となる。

参考文献 福井県（2002）、福井県自然保護センター（1995）、福井県自然保護センター（2001）、高野（2015）、中村・中村（1995）、松村・小澤（2012）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市

オジロワシ

Haliaeetus albicilla (Linnaeus)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

毎年少数が飛来し確認されているが、越冬地として定着している個体が確認できるのは、県内で2か所しかない。さらにいずれの場所も、個体数が1～2羽程度と少なく、絶滅の危機的水準にまで減少している。

分布

北海道では少数が繁殖しているが、越冬期にはロシアから冬鳥として全国に飛来する。本県では、越冬期に三方五湖や山間部のダム湖に渡来するが、稀に北潟湖にも飛来する。

生息を脅かす要因

三方五湖では、1990年代前半までは複数個体が越冬していたが、近年では1個体のみの越冬や越冬期間の短縮がみられる。捕食可能な餌となる多様な魚類や水鳥類の個体数の再生が保全対策には不可欠である。山間部も含め継続調査による実態把握が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、白木（2006）、小嶋（2014）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○				○		○		○	

オオワシ

Haliaeetus pelagicus (Pallas)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては、中部地方で有数の渡来地であった三方五湖において、毎年少数が飛来し越冬していたが、15年間連続渡来していた1個体の記録が2009年2月を最後に途絶えて以降は、湖やダム湖、海岸で不定期に飛来記録があるだけで、絶滅の危機的水準に達している。

分布

北海道や本州北部に冬鳥として渡来し、ごく少数が西日本まで南下する。本県では三方五湖に毎年越冬していたが、現在は消失している。ほかに、北潟湖やダム湖等でも記録がある。

生息を脅かす要因

三方五湖への渡来が途絶えたのは、餌となる魚類の減少が主要な要因と考えられるため、三方五湖と周辺の生物相を把握する定期的なモニタリング調査と、その結果に基づいた自然再生事業の実施が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、中川（2009）、小嶋（2014）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○								○			○	